

# 魔法の medicine プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：高橋都和 所属：宮城県仙台市立鶴谷特別支援学校 記録日：2021年2月11日

キーワード：自己肯定感、自信を持つ、コミュニケーション、友達との関わり合い

## 【対象生徒の情報】

### ○学年

中学部3年生

### ○障害種別

知的障害、ダウン症候群

田中ビネー知能検査V MA：4歳1か月 IQ：30 (R1, 9月時点)

### ○障害と困難の内容

- ・活動内容に見通しが持てなかったり、苦手な活動があったりすると、気持ちを切り替えることが難しいことがある。
- ・人と関わり合うことに慎重さや臆病さがあり、初対面の人との会話や、人前での発表を苦手としている。特に人前での発表について、2～3人の小グループであっても、前に出た発表や、周囲に聞こえるような声で発表することが難しい。しかし、1対1で関わりのある相手と会話する場合は、自分の考えや気持ちを伝えることができる。
- ・コミュニケーション面で上手くいかなかった体験により、自分の肉声で意思を伝えることに強い抵抗感がある。理由を聞いたところ、「緊張する。」と答えた。
- ・日常的に接しているグループのなかでも、大人数だと緊張し、活動に参加することが難しいときがある。

## 【活動目的】

### ○計画時の目標

- I 教室内で、自発的に自分の気持ちを伝えられるようになる。
- II 学部内で、自分の考えの発表を前に出た行う事ができるようになる。
- III 全校生徒の前で、挨拶の号令等を行う事ができるようになる。

### ○全校集会停止を受けての変更後の目標

- I 教室内で、自発的に自分の気持ちを伝えられるようになる。
- II 学部内で、自分の考えの発表を前に出た行う事ができるようになる。
- III Zoom等を使用して、離れた相手にも自分の気持ちを相手に伝えられるようになる。

### ○実施期間

2020年6月～2021年1月

### ○実施者

高橋都和（採択者）

### ○実施者と対象生徒の関係

学級担任

## 【活動内容と対象生徒の変化】

<対象生徒の事前の状況>

### ○自分の気持ちを伝えることについて

- ・紙に文字を書くのが好きで、「ありがとう。」といった文字を採択者やTTの教員に見せるときがある。
- ・選択肢を提示されると、指差しなどで選択することができる。
- ・気持ちが下がってしまったときには、自分の気持ちを伝えることが難しい。

### ○対象生徒の願い

- ・発表することや、係の仕事をこなすことについて、「かっこいい」と発言したことがあり、皆と同じように自分も人前で意見を述べたいと感じている。
- ・臆せずに、様々な人と会話したいと考えている。

### ○機器の活用について

- ・前担任が活用していたこともあり、iPadの使用は慣れている。
- ・操作に関しては、繰り返し使うことで手順を覚えることができる。

### ○環境

- ・学級には対象生徒を含め、4人が在籍している。担任は採択者を含め、2名である。
- ・パニック等がなければ、穏やかに活動ができる学級である。
- ・積極的に話しかけてくれる友達が一人いて、頷きやハイタッチでコミュニケーションをとるときがある。

<活動の具体的内容>

### ○健康観察係（6月～1月） DropTalk

毎日行う朝の会にて健康観察係を担当し、DropTalkを使用しながら取り組んだ。健康観察係の流れは以下の通りである。

- ① 教員（採択者+TT）、友達の名前を呼ぶ（順番は任意）。
- ② 元気かどうか尋ねる。
- ③ 返答に応じて「にこにこマーク」か「しょんぼりマーク」を渡す。

DropTalkに入れる内容は、朝の自立活動を利用して採択者と相談しながら文面を考えたり、写真を撮ったりして作成した。目的としては、①継続して取り組むことで、iPadの使用に慣れること②友達の名前を呼び、反応をもらうことでやり取りの第一ステップとしての経験を積むことの2点を意識している。



健康観察時の  
DropTalk キャンパス

### ○取り組み開始当初の対象生徒

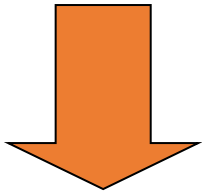
- ・iPadに背を向けて席から椅子ごと離れていくことが多かった。
- ・DropTalkのアイコンを押そうとしなかった。

予想：友達や教員（採択者+TT）が見つめている状況であったため、その空気感や、操作面での不安感が妨げとなっていたのではないかと推察される。

（使い方が間違っていたらどうしよう・・・）



机から離れて  
行ってしまう様子

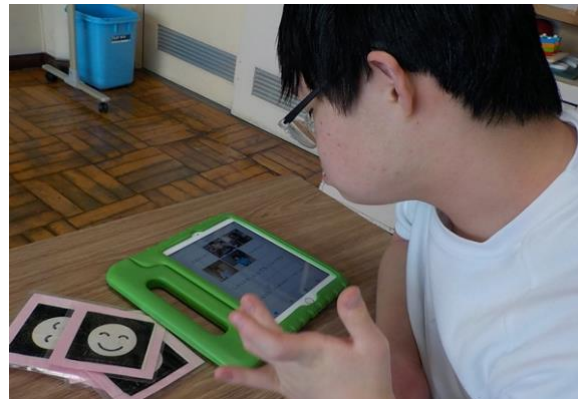


「一緒にやってみよう！」  
→採択者の指を対象生徒が持ち、  
採択者と一緒にアイコンを押  
して他者の名前を呼んでみる。



### ○7月の健康観察の様子

毎日継続して教員（採択者+TT）と一緒に取り組んだところ、スムーズに名前をタップできるようになってきた。また、徐々に教員の補助なしでアイコンをタップしようとする様子も増えてきた。呼ぶ順番も、自分で工夫してそのときの気分で変えている。また、その後の「元気マーク」と「しょんぼりマーク」も自分で友達に手渡せるようになってきた。これらができるようになったことで、友達の名前を呼び、反応を返してもらうという経験を毎日できるようになった。採択者には、「これ最高だね。」と笑顔で伝えることもあった。

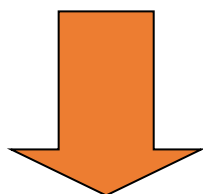


一人で DropTalk を操作し、呼名する様子

### ○8月の健康観察の様子

本学級では、健康観察時に「にこにこマーク」か「しょんぼりマーク」を黒板に貼る活動を行っている。これまでの取り組みで、友達の名前を呼び、マークを渡すことがスムーズになってきたが、自分の番になると、急に俯き、黒板に、マークを貼りに行くことが難しかった。

予想：周囲の視線を感じることで緊張し、一人で貼りに行くことができなかったのではないかと。



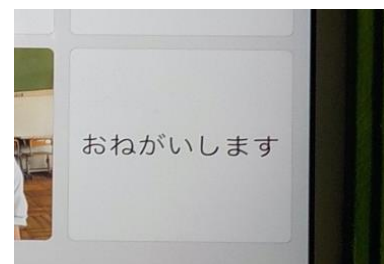
「友達と一緒にやってみよう！」  
→キャンパスに「おねがいします」の項目を追加し、友達と一緒に、黒板にマークを貼ってみる。



本学級の黒板

### ○10月の健康観察の様子

その日の対象生徒の気持ちに合わせて、友達に「おねがいします」の依頼をするように促したところ、呼ばれた友達が対象生徒の手を取り、黒板まで一緒に行ってくれるようになった。これまでは友達への呼びかけや依頼は少なかったため、自分から依頼すると応じてくれる、といった経験や、協力することで人前に出て係の仕事を行うという経験も少なかったが、今回のような iPad を活用したやり取りを通して、人と関わり合うことへの心理的抵抗感が軽減されたことが分かった。



依頼のアイコン

### ○10月～12月の健康観察の様子

情緒が不安定な友達が居た場合は時間をおいて呼名したり、マークを貼りに行く際に友達への依頼をしたりと、対象生徒なりに「DropTalk」を工夫して使い始めることができるようになってきた。また、教員（TT）の名前を呼んで「おねがいします」のアイコンを使用することで、担任と一緒に手をつないでマークを貼りに行くこともあった。このように iPad を活用しながら繰り返し係活動に取り組むことで、徐々に前に出てマークを貼りに行くことへの心理的抵抗感も軽減してきた。

### ○1月28日の健康観察係の様子

健康観察係において、スムーズに友達の名前を呼名し、自分がマークを黒板に貼りに行く順番になったとき、「DropTalk」にて担任2名の名前を同時に呼び、「おねがいします」の依頼があった。採択者は「二人で手をつなぐとカードが持てないので、応援でも良いですか？」と尋ねたところ、「うん。」という解答があったため、担任二人で「できるよ！素敵！」などと応援したところ、手をつながずに一人で黒板にマークを貼りに行くことができた。



一人でできたよ！

小考察：iPadを使用して呼名、依頼し、応じてもらう経験を積み重ねたことで自信がついたのではないかな。

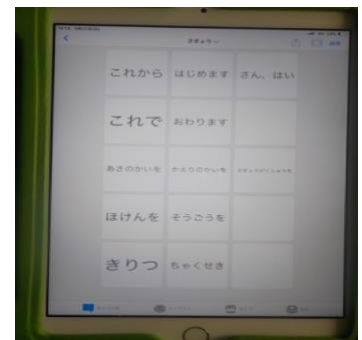
手をつながずにマークを貼った様子

### ○日直の司会（6月～7月）



DropTalk

週に1～2回輪番で回ってくる日直の際に、「DropTalk」で挨拶や会の司会進行を行った。「DropTalk」の内容は朝の会の内容と合わせて、係の生徒の呼名など、採択者と相談しながら作成した。授業開始、終了時の挨拶や、朝の会、帰りの会の司会役は、前（黒板の前に設置された日直専用席）に出ることを目標にすると採択者と取り決めた。また、日直の仕事を行う際は、着席したまま行るか、前に行くか、その都度意思を教員（採択者+TT）に伝えながら取り組んだ。



日直時のキャンパス

### ○取り組み開始当初の対象生徒

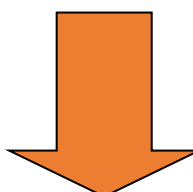
- ・「前に出て（日直を）やってみたい気持ちはある？」と採択者から尋ねられると、「やってみたい。」と回答する。
- ・「前の席に座ってみようか。」と採択者から尋ねられると、その場で固まってしまうことが多かった。

予想：前に出て日直を行いたいという気持ちはあるものの、それを上回る緊張感や不安感がある。また、日直は4日に一度しか回ってこないため、あらかじめ心の準備が必要なのではないかな。



(本当は前でやってみたいけど...)

自分の席で日直を行う様子



「見通しを持とう！」

→前日から、「明日は日直だね。」

と言葉掛けを行い、日直の仕事の確認を行った。

○6月の日直の様子

日直の前日となる度に採択者と「明日は日直だね。前に出て司会できそう？」「やる。」というやり取りを行っていたが、日直の日になると、「自分の席でやる。」といい、1度も前で司会をすることはできなかった。会終了後に採択者と意思を確認すると、やってみたいという意思を伝えた。

○7月10日の様子

7月10日、日直が回ってきたので、前日にあらかじめ採択者と意思を確認した。しかし、朝の会は前で司会をすることはできなかった。帰りの会前、iPadの充電がなくなりかけていたため、日直の席で充電していた。採択者が「iPadの充電がなくなりそうだから、線につないだまま日直をお願いしたいのだけれど、前でやってくれない？」と聞くと、「いいよ。」とあって、初めてクラスメイトの前で日直を行う事ができた。会終了後、採択者とTTの教員から称賛されると、笑顔を見せていた。

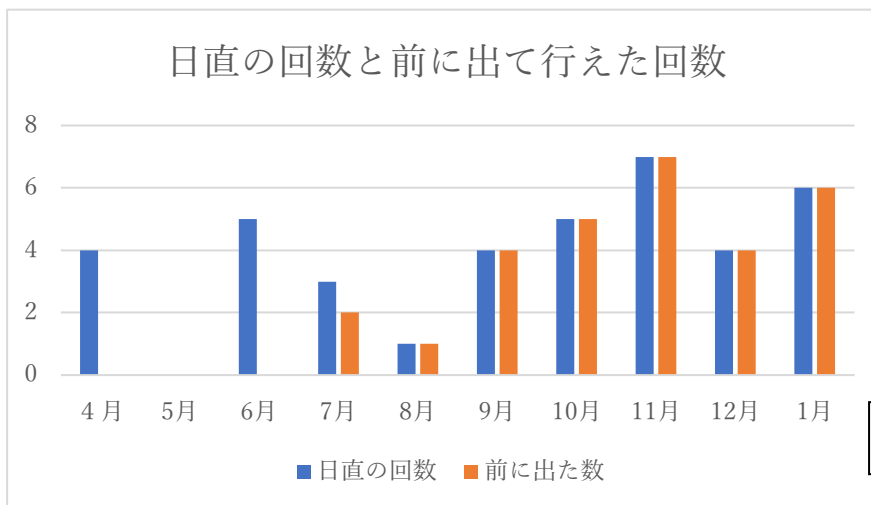


前に出て帰りの会の司会を行う様子

小考察：「前で司会をしたい」という気持ちはあったので、切っ掛けが欲しかったのではないかな。

○7月10日以降の様子

一度前で日直の司会ができ、自信が付いたのか、以降は前に出て日直の司会を行えるようになってきた。帰りの会だけでなく、朝の会でも前に出て日直を行うことができ、採択者に「かっこいいね。」と伝えられると、「そうだね。」と笑顔で答えていた。



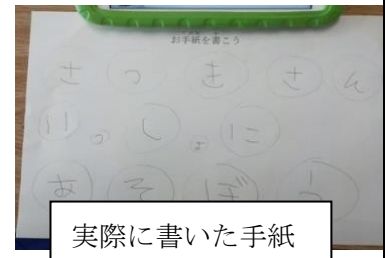
前に出て会の司会を行う様子（2回目）

○自信がついてきたことを感じるエピソード

本校の体育の授業は、単一障害課程のクラスが学部合同で行っている。そのため、始めの挨拶等の号令は、T1から「〇年〇組の日直さん、お願いします。」のように指名されることがある。冬休み明けの体育の授業で、採択者がiPadを持って行くのを忘れたため、対象生徒が学部全員の前に立ち、自身の声で号令を掛けなければいけない場面があった。採択者は急な号令係に対象生徒が不安にならないか心配していたが、対象生徒は足取り軽やかにT1の所に進み出て、マイクを通して、自分の声で号令を掛けることができた。周囲の生徒や先生から拍手が起こると、嬉しそうに採択者に駆け寄り、ハイタッチしてくれた。

## ○手紙

対象生徒から「(友達に) お手紙を書きたい。」との相談があったため、中学部2年生の生徒に手紙を書き、渡しに行く計画を立てた。手紙を作成した後、手紙を渡しに行く際のやり取りに必要な言葉を採択者と考え、「DropTalk」でキャンパスを作成し、事前に2回、ロールプレイングを行って練習した。



実際に書いた手紙

### ○キャンパスを作成しよう

手紙を渡す友達の教室に入室するとき、その友達の担任と話をするとき、友達に手紙を渡すときといったように、自分の教室を出てから、手紙を渡し、退室するまでを場面ごとに分け、その場面に必要な言葉を採択者と相談して考えた。例えば、教室に入室する場面を考えるときには、①採択者が「目的の教室につきました。扉の前でなんと言いますか。」と聞く②対象生徒が「失礼します。」と口頭で回答する③肉声で録音するか、VOCAに話してもらるか決めてもらう④キャンパスに入力するという手順でキャンパスを作成していた。

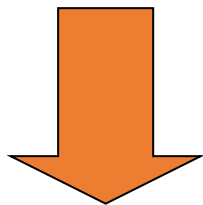
### ○渡しに行く時の対象生徒

- ・練習はしたものの、友達がいる教室の前で座り込んでしまった。
- ・採択者と意思を確認し、「手紙をどうしても渡しに行きたい！」との気持ちが強い。
- ・一度教室に戻るか尋ねられても、その場を動かない。



座り込んでしまっている様子

予想：手紙を渡しに行きたい気持ちと、不安や緊張で板挟みになってしまっている。自信を持てるような言葉がけがあれば、行動に移せるのではないか。



「自信を持とう！」

→日直や係の仕事で上手に iPad を使えていることを伝え、もう一度その場でロールプレイングを行い、操作が合っている旨、きっと受け取ってもらえる旨を伝えた。

### ○手紙を渡すことができたときの様子

採択者に励まされ、ロールプレイングを行なうことはできたが、以前として座りこんだままであった。意思を確認したところ、やはり「(手紙を) 渡したい。」という気持ちが強く、iPadの「DropTalk」の画面と手紙、教室を何度も代わる代わる眺めていた。また、採択者の顔も何度か見ており、時間を気にしている様子もあった。採択者から「時間はどれだけ掛かってもいいよ。付き合うよ。」と言言葉をかけられると、少し表情が和らぎ、また手紙とiPadの画面を眺めていた。そこから3分ほど経過すると、自分から立ち上がり、教室の中を覗き込んで、友達に話しかけることができた。その後採択者は見守りに徹し、対象生徒の力のみで友達に手紙を受け取ってもらうことができた。



対象生徒(左)が友達に手紙を渡している様子

小考察：「DropTalk」を使用することに慣れてきており、気持ちを

整理する時間を十分に取ったことで、気持ちの思い切りが  
付いたのではないかな。

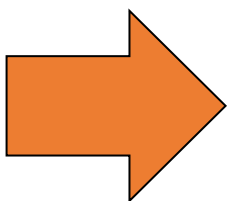
手紙を渡し終えたあと、自分の教室に戻るときには、やり切った表情で、非常に嬉しそうであった。採択者から、「自分で思い切って渡せたね。」と伝えられると、笑顔で頷き、自己肯定感が高まった様子であった。

### ○リモート夏祭り（7月） DropTalk Zoom

「Zoom」を使用して、職員室や他学級から注文をとり、景品を届けに行くリモートデリバリー夏祭りを行った。夏祭りの係は友達と話し合いをして決め、注文を受け付ける係と、デリバリーする係を担当した。注文を受ける場面では、採択者と相談して「DropTalk」の内容を考え、画面越しでのコミュニケーションに挑戦した。始めは画面内で知っている友達や教員が話しかけてくることに戸惑いを見せていたが、「一緒に iPad を操作して注文を受けてみよう。」と教師が誘うと、iPad を操作して、注文を受けることができた。また、友達と協力して注文を受けた品を相手に届けることができた。配達先の教員に上手に渡せると、とても満足そうな表情をしていた。



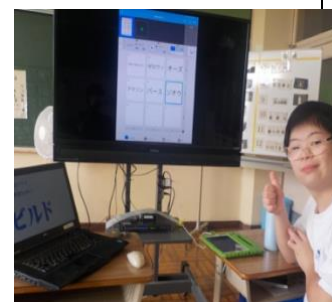
Zoom で様々な学級から  
注文を受ける様子（左）



女性教員に品物を  
手渡しできた場面

### ○仮面ライダー博士（9月） DropTalk

本校の修学旅行で、石ノ森萬画館（仮面ライダーの作者の博物館）に行くこととなったため、事前学習として、仮面ライダーについて取り扱うこととなった。そこで、対象生徒が仮面ライダー好きであったため、3年生の前でプレゼンしてみようかと誘ったところ、快く引き受けてくれた。プレゼン方法について、採択者が「自分の声で発表しますか？ iPad を使いますか？」と聞くと、「(iPad を指さして) これ。」と返答があったため、「DropTalk」を使用して発表することとした。また、採択者が「iPad に話してもらいますか？それとも自分の声で録音しますか？」と尋ねたところ、「じぶんで。」と、自分の声で録音、プレゼンすることを決めてくれた。プレゼン当日、緊張している様子であったため、ロールプレイングで確認して臨んだところ、3年生が見ている中でも発表することができた。



自分の声を録音している  
様子



緊張して教室に入れない様子



皆の前でプレゼンしている様子



発表  
できたよ！

## ○教育実習生との関わり（11月）

本校では多くの介護体験実習生や、教育実習生を受け入れており、今年度も10名近くの学生が本学級で実習を行った。11月、実習生が本学級に配属され、朝の会にて健康観察係に取り掛かる前に、対象生徒から「(実習生の)名前、なに？」との質問が採択者にあった。採択者が「実習生さんに自分で聞いてみましょうか。」と提案すると、「うん。」との回答があったため、「DropTalk」を使用して実習生に名前を聞く活動を行うこととした。キャンパスに入力する際には、採択者と「実習生さんになって聞いてみますか。」「名前を教えてください。」といったやり取りを行い、言葉をつなげていった。



iPadを使って実習生とコミュニケーションをとっている様子

### ○名前を聞こう！

キャンパスに入力が済み、いざ実習生と対話しようとする、「どうやって言え方がいいの。」と、緊張した様子であったが、採択者が「(実習生の)近くまで一緒にいきましょう。」と誘うと、採択者の手を取って実習生のところまで行くことができた。実習生も対象生徒と視線の高さを合わせてくれたため、キャンパスを見せながら名前を聞くことができた。その後は採択者がそっと離れても実習生との対話を続けられていた。

### ○写真を撮ろう！

対象生徒から「(実習生の)写真を撮りたい。」との希望があったため、名前同様に相談してキャンパスを作成し、実習生との対話に臨んだ。名前を聞くことができ自信が付いたためか、採択者の支援なしでも、実習生の近くに行き、自分でiPadを操作して写真を撮ることができた。写真を撮った後は、撮った写真を嬉しそうに採択者に見せてくれた。

### <対象児の事後の変化>

#### ① 「DropTalk」を用いると、学級内や学部内で、友達の前に出て発表することができるようになった。

健康観察係や日直の仕事を通して、本人の願いでもあった、「皆の前に出て発表する」ことの第一歩となる、学級内での発表に自信が持てるようになってきた。たとえば、7月の日直の仕事でほんの少しの切っ掛けで前にでられたように、本人の気持ちを優先し、自分で前に出て発表しようという気持ちを高められるような出来事や言葉掛けがあることで、前に出て発表する事への心理的抵抗感が少なくなったように感じる。

#### ② 友達とより多く関わり合えるようになった。

手紙のやり取りのエピソードや、健康観察係の依頼の場面などから、友達と関わりたい気持ちが高まり、具体的にコミュニケーションをとる方法を採択者と相談して模索しようとする姿が増えたことが分かる。iPadを使用したやり取りをする経験を積み重ねたことで、友達や教員（採択者や担任以外）と関わり合う手段が増え、様々な方法で意思を伝えようとする姿勢が見られるようになった。また、健康観察係などで実際にやり取りが成立した経験を積み重ねることで、その他の場面においても、勇気を出して一歩踏み出し、他者と関わり合えるようになった。

#### ③ コミュニケーションに対して、自信が付いてきた。

リモート夏祭りや、仮面ライダー博士としてのプレゼンなど、様々な場面で「DropTalk」を使用して意思表示や発表ができたという体験を積み重ねたことで、コミュニケーションへの自信が付いてきたように感じる。「自信が付いてきたことを感じるエピソード」でも挙げたように、以前では自分の肉声で号令を掛けることは考えられなかった対象生徒であるが、「DropTalk」を使用しなくても、大勢の前で自分の役割をこなすことができるほど、自信や余裕を持てるようになってきた。



## 【報告者の気づきとエビデンス】

### <主観的気づき>

- ・ iPad の VOCA 機能（「DropTalk」）を使用し、コミュニケーションが成立する経験を積み重ねたことは、「前に出て発表したい。」という本生徒の願いを叶える一つ的手段として有効ではないか。

### <エビデンス>

実践前には学級内や学年内でも「人が多い・・・」と自分の意思を発表したり、前に出て日直を行ったりすることは難しかった。しかし現在では日直になると欠かさず前に出て司会を務めてくれるようになった（P. 5のグラフ）。また、友達に依頼したり、反対に友達から依頼されたことに対して快く承諾したりと、対象生徒の関わり合いの輪が広がってきている。また、昨年度の担任や、実践前の対象生徒を知る教員からも、「よく話してくれるようになった。」「こんなに長く話してくれるようになって嬉しい。」といった声が挙がっている。iPad はいつも持ち歩いているわけではなく、突発的に関わりの浅い関係の教員から声を掛けられたときには、VOCA 機能を使うことができない。しかし、そのような場合でも、自分からその教員の耳元に顔を近づけて「おはよう。」と言ったり、グータッチで挨拶したりするなど、コミュニケーションに対する柔軟性や自信を感じられるようになった。



修学旅行の解散式の様子

保護者や他学年の教員も参観していたが、堂々と司会を務めることができた。

### <その他エピソード>

手紙を書く際には、「平仮名ボード しやべる50音表」や「ごじゅーおん」を使用して、①書きたい文章を採択者と考え②平仮名ボードに打ち込む③音声を流し、正しい文章になっているか確かめる④用紙に記入するという手順で作成した。アプリの操作に慣れてくると、友達の名前や、伝えたいことをボードで入力し、手紙に書くという一連の流れを一人で行えるようになった。今後も平仮名、片仮名の語彙を拡充し、さらに自由に気持ちを表現できるように支援していきたい。



平仮名ボード  
しやべる50音表



平仮名ボードアプリ  
「ごじゅーおん」